

# 平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 八枝 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 八枝 小学校 「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均正答率を上回っていたが、無解答率が高かった。できそうな問題に時間をかけ、確実に問題を解答する傾向がある。</li> <li>・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しくことや、文の中における主語や述語を捉える問題に課題がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える問題が、全国正答率よりも正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題については、無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率が全国平均を全部上回っていたが、無解答率が高かった。できそうな問題に時間をかけ、確実に問題を解答する傾向がある。</li> <li>・目的や意図に応じて文章を書いたり、目的に応じて文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることが身に付いている。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	登場人物の気持の変化を想像しながら音読する問題が、全国正答率よりも正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える問題については、無解答率が高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率が全国平均をほとんどの問題で上回っていた。基本的な内容の定着が図られている。</li> <li>・数量や図形についての知識・理解を今後更に高めていく必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる問題が、全国正答率よりも正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示されている三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することの全国正答率よりも正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率が全国平均をほとんどの問題で上回っていた。また、無解答率が全国平均よりも、全部低かった。</li> <li>・数学的な考え方の評価が高く、どの問題に対しても粘り強く取り組んでいる。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	正三角形の性質や合同な三角形の性質を使って角度を求める問題が、全国正答率よりも正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる問題が、全国正答率よりも正答率が低かった。だが、無解答率は全国平均よりも低かった。	

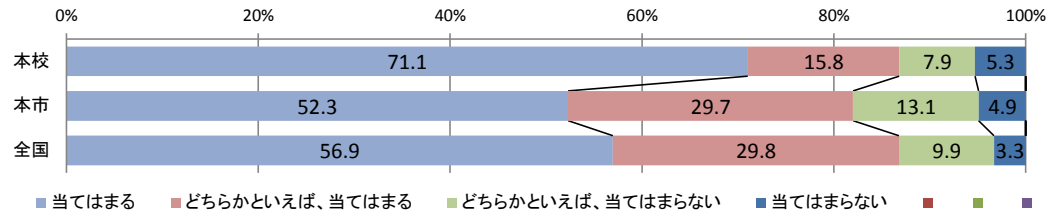
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率は全国平均よりも高かった。しかし、主として「知識」に関する問題の正答率は全国平均よりも低く、主として「活用」に関する問題の正答率は全国平均よりも高いという二極化が見られる。</li> <li>・生命に関する自然事象についての知識・理解の問題に課題がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述する問題が、全国正答率よりも正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	顕微鏡の名称を記述する問題の正答率が全国平均よりも低かった。また、無解答率も全国平均よりも高かった。	

### ③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

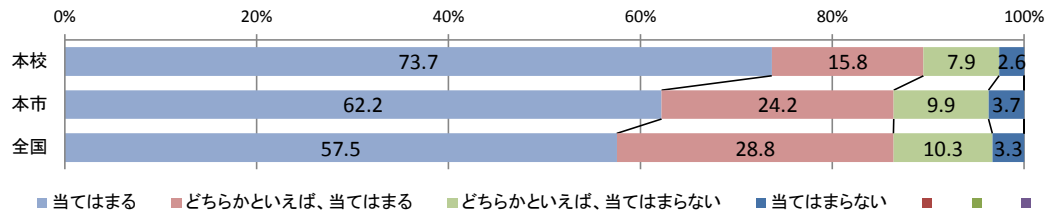
38

授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



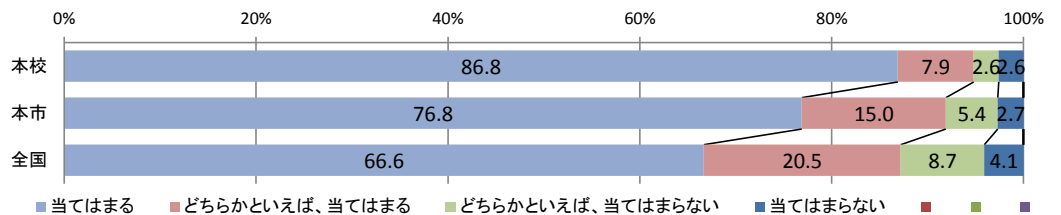
41

授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



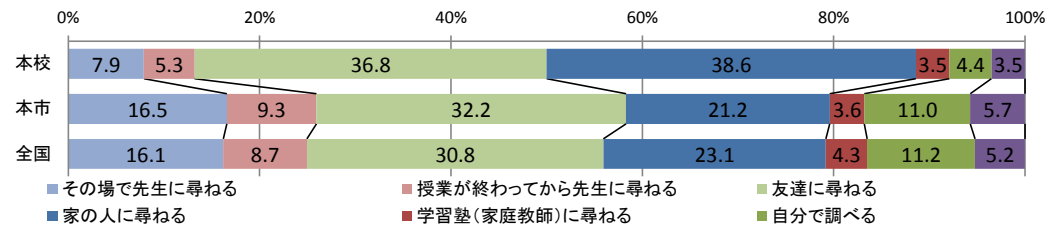
43

授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。

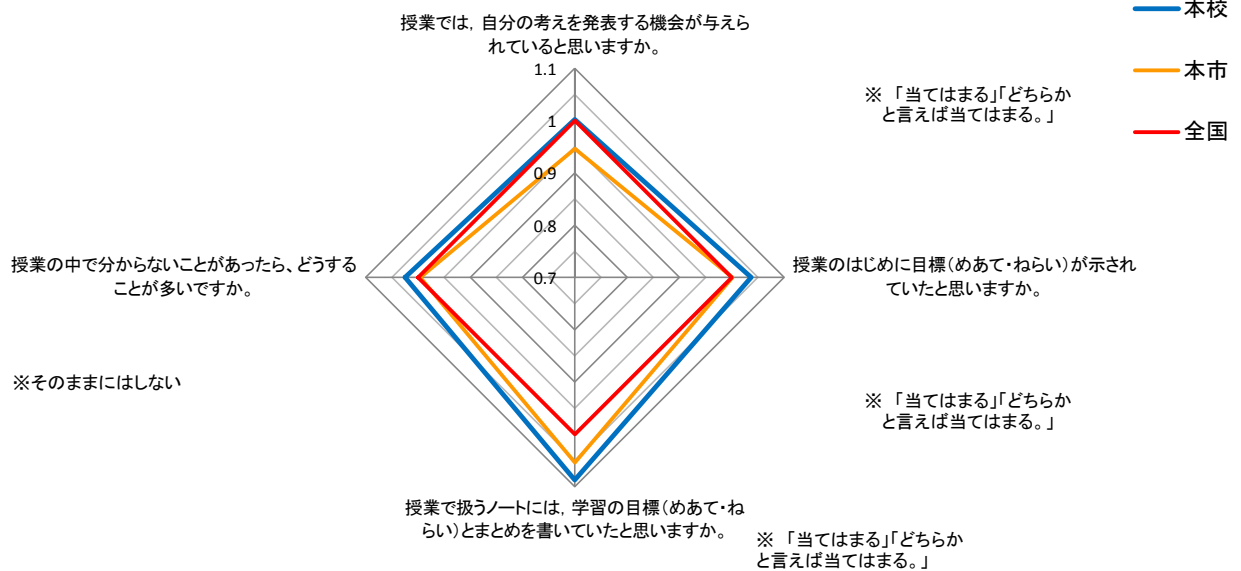


47

授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



### ④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



### ⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

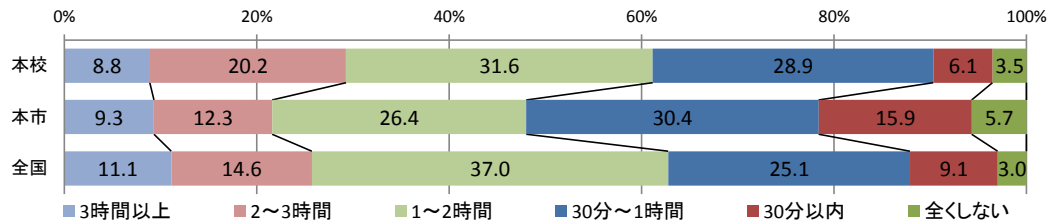
- ・めあて学習が徹底しており、見通しをもって学習に取り組むことや学習内容の定着が図られている。また、ノート指導も行き届いている。
- ・授業の中で発表の機会が確保されており、児童が主体的に自分の考えを伝え合うことや、友達の意見を聞き自分の考えを深めたり、広げたりできている。
- ・分からないことは、学校だけでなく家庭で解決している児童が多く、家庭内での学習の充実が見られる。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

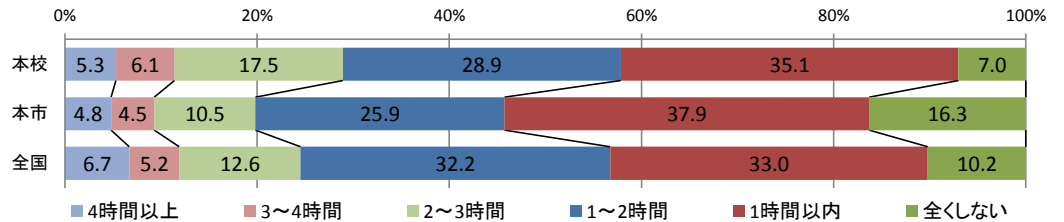
### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

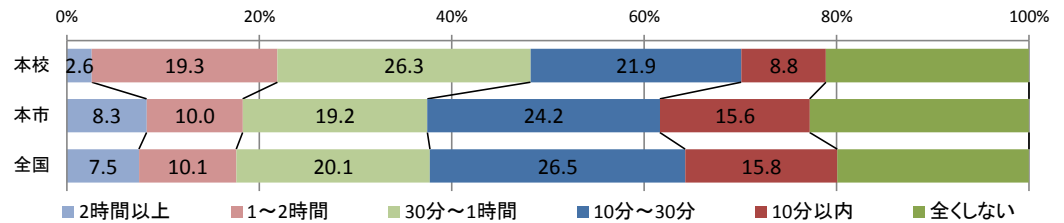
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



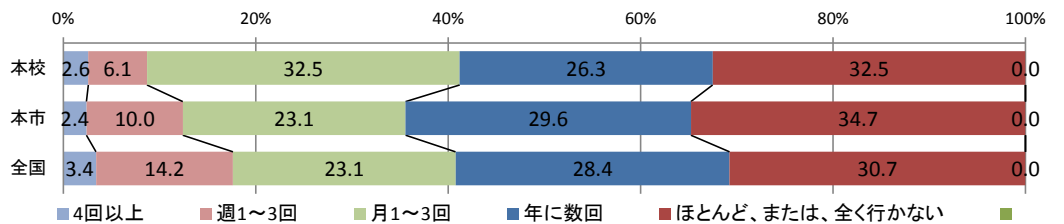
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)



17
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



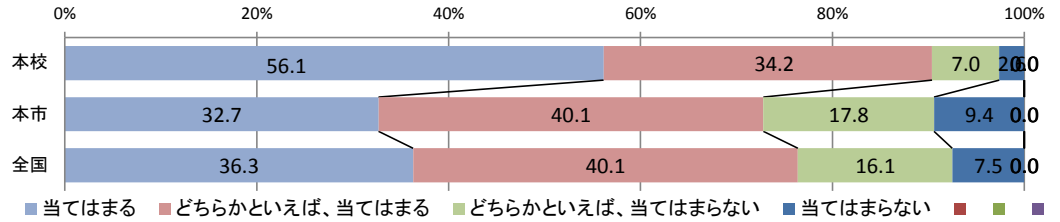
### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・学校での学校図書室の利用が多くなっている。これは、朝の読み語りやブックヘルパー、学校図書館職員の活動の効果と考えられる。しかし、家庭での読書をする児童は全国平均よりも少ない。
- ・平日の家庭での学習時間は、全国平均とやや低いが、土日等の休日の学習時間は全国平均よりも少し高い。

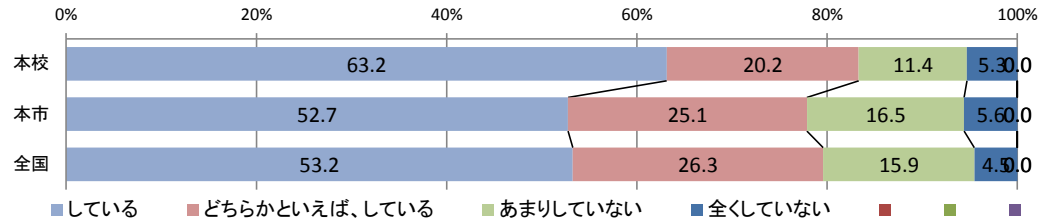
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

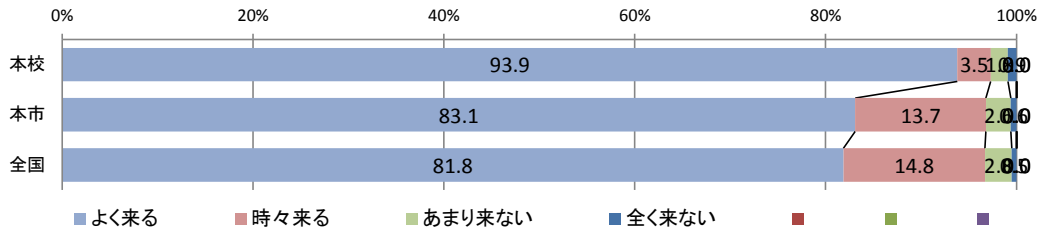
6
自分には、よいところがあると思いますか。



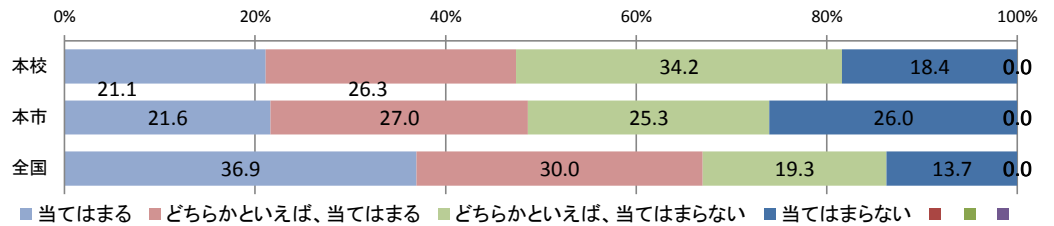
18
家の人(兄弟姉妹は含みません。)と学校での出来事について話をしますか。



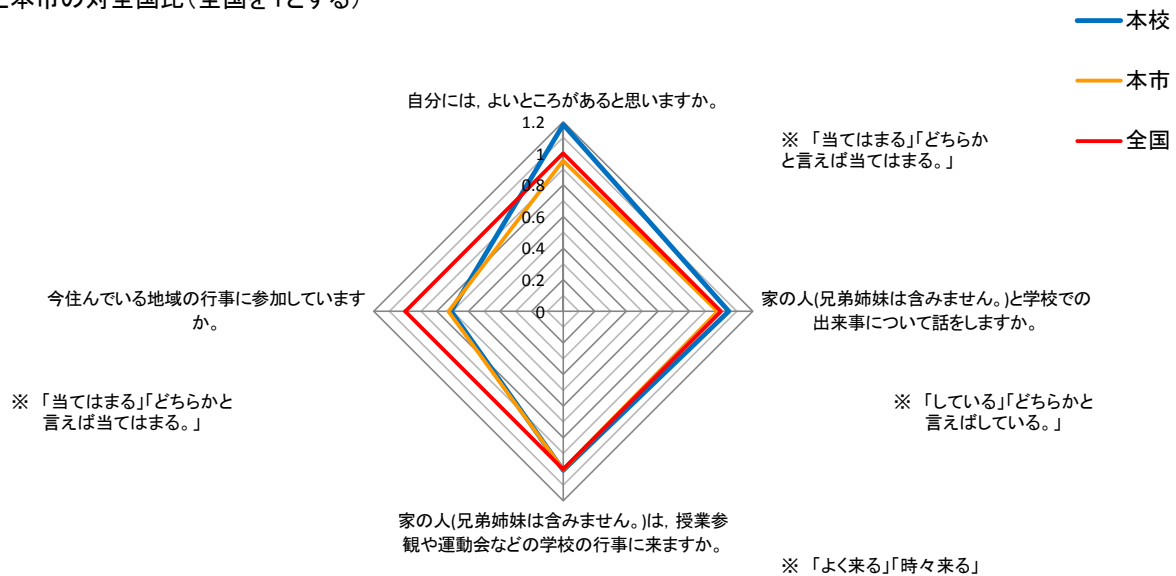
19
家の人(兄弟姉妹は含みません。)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。



27
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・セルフエスティームが高く、自分に自信をもっている児童が多い。  
 ・家族が学校行事に参加したり、家庭で家族と会話をしたりする児童が全国平均よりも高く、家庭でのコミュニケーションが十分にとれている児童が多い。しかし、地域行事に積極的に参加している児童は少ない。地域とのつながりが希薄化している傾向がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

##### ◎ 学力向上のための特設時間の充実

- ・朝自習(毎週水曜日)に「ひまわりタイム」として、音読・暗唱ブック「ひまわり」を活用して全校一斉音読や発音練習の継続実施。
- ・朝自習(毎週火曜日と金曜日)の「がんばりタイム」の時間を言語や数量、図形についての知識・理解・技能の習得時間とし、全校一斉に「漢字の読み・書き」及び「計算練習等」などの活動をする。

##### ◎ 過去問題、アシストシート等の活用

- ・全学年、アシストシートを家庭学習や朝自習等に活用し、答え合わせ・解説・やり直しを行うことによって、基礎・基本の徹底を図る。
- ・全国学力調査やCRTの課題に沿って、冬休みの宿題にはアシストシート、春休みの宿題には過去問題やアシストシート等の問題を活用する。また、理科の自然に関する知識・理解面の問題に取り組む。解答では、「活用」に関する問題については、学校で補足・説明をして児童の理解を深める。

##### ◎ 算数科に絞った校内研究の実施

- ・本校研究主題を『数学的な思考力・表現力を高める算数科学習指導の研究～「見通しをもつ」「自分の考えを説明する」「振り返る」活動の指導の工夫を通して～』とし、これまで、本校が培ってきた言語活動をいかしながら、表現力の定着を中心に研究に取り組む。特に見通しをもたせ、学習内容が分かりやすいように板書計画を構造化したり、ノート指導をしたりする。「活用する力」を付けるために、授業中の発表や話し合い活動を工夫したり、振り返りを限定した言葉で書かせたりする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

##### ◎ 家庭学習のスタンダード化

- ・家庭学習の自主的な取組ができるように、自学の仕方を指導する。
- ・家庭学習時間の設定(30分+学年×10分、例:6年生→30分+60分=90分)
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」活用の充実(月末にメール配信で各家庭に呼びかけ、月始めに学習内容・状況を各クラスで確認)

##### ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・学校便りや学校HPで家庭へ周知

##### ◎ 情報モラルやマナーの向上に向けての指導や啓発活動の継続

- ・ICTサポーターを活用して、学年の発達段階に応じた情報モラル授業を高学年を中心に実施し、情報モラルの向上を図る。
- ・学校便りや学年通信、懇談会等での機会を利用して、スマホや携帯使用における情報モラルやネット向上の啓発活動を行う。(特に、家庭での児童の携帯電話使用制限・管理や22時オフを啓発する。)